新聞掲載記事より

《 長崎新聞　令和２年10月26日朝刊より 》

※新聞記事のレイアウトを変更しております。

献血の仕方

16歳から69歳まで可能

安定供給へ若者の協力を

【質問】献血をするにはどうすればいいですか。

（16歳、高校生）

医療制度Q&A

【回答】血液は人工的につくり出せません。このため善意の人々から無償で採血に協力してもらうのが「献血」です。血液は赤血球、白血球、血小板などの細胞成分と血漿（けっしょう）成分からできています。▽病気で十分な血液をつくれない▽手術やけがによる大量の出血で生命に危険が生じる▽血液を固めるタンパク質（凝固因子）が足りない－といった時に使用する血液製剤が、献血からつくられます。

献血は16歳から69歳まで（65歳以上は一定の条件付き）の健康な人であれば誰でも可能ですが、献血者の健康を守るために多くの基準（体重、血圧、血色素量など）が設けられています。一方、安全な血液製剤を供給するために、検診医が採血前に日常生活や病歴、服薬歴などを詳細に聴取し、提供された血液の輸血適否の検査を行います。献血者には健康管理のため血液計数検査（赤血球数など）や生化学検査（肝機能など）の結果を後日、希望者全員に郵送しています。

全血献血には200ミリリットル献血（16歳から）と400ミリリットル献血（男性17歳から、女性18歳から）があります。供給血液の不足を補い、安全な輸血を行う観点から原則400ミリリットル献血をお願いしています。その他、血液成分分離装置を用いて血漿や血小板だけを分離し、赤血球等の成分は体内に戻す成分献血（18歳から）もあります。

県内では長崎市浜町（献血ルームはまのまち）、佐世保市上京町（献血ルーム西海）の2カ所に常設の献血ルームがあります。また、県赤十字血液センターから献血バスが配車され、県内各地で採血を行っています。毎日の配車場所や時間帯などは同センターのホームページで確認できます。

全国で1日約3千人が輸血を必要としており、1日約1万3千人の献血者が必要です。しかし、少子高齢化などの影響で10～30歳代は次第に減少し、最近は新型コロナウイルスが追い打ちをかけ、医療に重大な影響が出かねない状況です。

このため、献血ウェブ会員サービス「ラブラッド」が開設されており、登録すると献血ルームなどでの献血の事前予約や、検査成績の速やかな参照などが可能です。血液製剤の安定供給には特に、質問者のような若い世代の協力が必要です。関係機関が協力して10代の献血啓発も推進していく予定ですので、皆様のご理解をお願いします。

（県医師会）

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852－8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q＆A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。